

Minato International Association

港区国際交流協会

No. 37

# South Wind

〒 105-8511 東京都港区芝公園 1-5-25 港区役所内  
1-5-25 Shibakoen, Minato-ku, Tokyo 105-8511

February 21, 2003

Tel. 03-3578-3530 / Fax. 03-3578-3537 / E-Mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

<http://www.minato-intl-assn.gr.jp>

## 目次・Contents・目录

2003 年の初夢 - 港区七福神と神仏習合 - .....	2
The First Dream of the Year 2003.....	2
2003 年の初夢 - 港区七福神和神佛习合（合二为一） .....	3
港区今昔—港区の大名の墓 その 11 東禅寺 .....	4
Look into Minato City—The Tombs of Feudal Lords (11).....	5
港区今昔—港区の大名墓之 11 东禅寺 .....	7
MIA 青少年国際理解講座シリーズ NIS ウィンターコンサート .....	8
M.I.A. Youth International Understanding Lecture Series—NIS Winter Concert .....	8
記：M. I. A. 青少年国際理解講座—NIS 冬节音乐会 .....	8
青少年国際理解講座 西町インターナショナルスクール・ウィンターコンサート見学会 .....	9
Lecture for International Understanding for Youth Winter Concert at Nishi-machi International School 'LIGHT' .....	9
青少年国際理解講座：记参加西町国际学校冬季音乐会：光 .....	9
スティーヴンス・ハルミのアメリカ便り（33）ジョージア州のもう一人のノーベル平和賞受賞者 ...	10
A letter from the U.S.A. (33) Georgia's Other Nobel Peace Prize Laureate .....	11
史帝汶斯・Harumi 的美国信箋（33）又一位佐治亚州的诺贝尔奖得主 .....	12
グアナファトからこんにちは！（11）メキシコ便り .....	13
Hello from Guanajuato (11) A letter from Mexico.....	13
来自瓜纳华托的问候（11）墨西哥来信 .....	14
Saludos desde Guanajuato (11) .....	14
ニュージーランド便り（25）アオテアロアから .....	15
A letter from New Zealand (25) Hello from Aotearoa .....	16
新西兰鸿信（25）来自阿欧泰阿罗阿 .....	16
ノアの箱舟～カレンダーの裏紙を利用しての投稿 .....	17
Noah's Ark —Contribution written on the back of a calendar.....	17
是利用挂历的翻面投稿 .....	18
バンコク四方八方（14）～微笑みの国タイから～わが師、瀬戸正夫さん（上） .....	18
All Directions of Bangkok (14) From Thailand, A Pleasant Country .....	19
来自微笑的国度—泰国 曼谷的四面八方（14）我的老师—濑户正夫先生（上） .....	19
編集後記 .....	20
Post-script.....	20
编辑後记 .....	20

2003 年の初夢 - 港区七福神と神仏習合 -

翻訳委員長 清澤 暢人

七福神とは、福の神として信仰される 7 人の神、すなわち、大黒天、えびす、毘沙門天、弁才天、福祿寿、寿老人、布袋の 7 神をいう。この 7 神をまとめて信仰する形は室町末期に起こったとされ、とくに江戸時代には七福神めぐりが盛んになり、七福神をのせた宝船の絵が飾られるようになった。港区にも七福神と宝船を祀る以下の神社と寺院があり、これらを巡る「港区七福神めぐり」が現在も正月を中心にしておこなわれている。これらは六本木と麻布を中心にほぼ 3km 四方に収まっており、全行程約 7km、所要時間は 2～3 時間で格好のハイキングコースでもある。

寺社名	祀ってある神様	所在地
宝珠院	弁才天	芝公園 4-8-55
熊野神社	えびす	麻布台 2-2
十番稲荷神社	宝船	麻布十番 1-4-6
大法寺	大黒天	元麻布 1-1-1
氷川神社	毘沙門天	元麻布 1-4-2
桜田神社	寿老人	西麻布 3-2-16
天祖神社	福祿寿	六本木 7-7-7
久国神社	布袋	六本木 2-1-16

ここで注目したいのが、神社だけでなく寺院も「七福神」を祀っていることである。普通は「仏様」を祀るのが寺院、「神様」を祀るのは神社と考えられるに何故だろうか？この背景には我が国独特の「神仏習合」の歴史がある。例えば、大法寺に祀られている「大黒天」は、元来仏教の守護神であるが、日本に入ってきて日本古来の神様である「オオクニヌシノミコト」と習合して農業神（台所の神様でもある）となった。

「神仏習合」とは、日本古来の神の信仰と、後から伝来してきた仏教とが融合調和を遂げることである。既に西暦 720 年に完成した「日本書紀」巻 21 の用明天皇紀に「天皇、仏法を信じ、神道をとうとぶ」

とあるように、我が国では遠い昔から現在に至るまで、神道と仏教とが矛盾なく共存し信仰され人々の生活に溶け込んできた。

何故このようなことが可能だったのだろうか？これには仏教が本質的にキリスト教やイスラム教などにくらべると、きわめて宗教的に寛容であるということが基本にあるが、同時に「融通性に富み、和を尊ぶ」という日本人の気質が大きく作用していると私は考える。

世界的にみて、これまで宗教上の対立や排斥が多くの戦争や紛争の根本原因となっており、そしてそれは現在も続いている。この種の争いは、仮に一方が力をもって相手を押さえ込んだとしても、それは相手の更なる憎しみと反発心を助長させ、そしてそれが子孫に受け継がれるだけで恒久的な平和には決して結びつかない。私は現在世界において繰り返されているさまざまな争いを見るにつけ、違いを認め融合調和してゆくというこの「神仏習合」の精神が、今こそ世界に求められていると思う。

South Wind では、昨年「21 世紀の国際交流について」と題するアンケート調査をおこなった（South Wind No.36 参照）。そして、21 世紀の国際交流としてあるべき姿として浮かび上がって来たのは、「国籍、人種、文化などの違いを超えて、お互いに尊重し協力すること」というフレーズであった。そしてこれを実現するために日本（人）がなすべきことについてさまざまな意見が寄せられた。その中に「日本人は、もっと自国の文化や歴史を学び、日本文化を世界に向けて発信してゆくべきだ」という趣旨の提案があった。私もこれには全く賛成である。「神仏習合」に根ざす日本文化を、自信を持って世界に発信し、世界の恒久的平和に少しでも貢献したい、これが私の 2003 年の初夢である。

**The First Dream of the Year 2003**

-The seven Japanese lucky deities in Minato City and the merger of Shinto and Buddhism-

Nobuhito KIYOSAWA (Japan) M.I.A. Translation Committee Chairman

Shichifukujin or the seven lucky deities refers to six gods and one goddess: Daikoku-ten (happy god of wealth and agriculture), Ebisu (deity of fishermen and seamen), Bishamon-ten (god of war), Benzai-ten (deity of art, literature, music and eloquence and the only female), Fukurokuju (god who is able to prophesy events and perform miracles to benefit mankind), Jurojin (god of longevity) and Hotei (god of contentment and happiness).

The custom of worshipping the seven deities as a unit is said to have started toward the end of the Muromachi period (1336-1573); it became very popular during the Edo period (1603-1868), when a picture of the Takarabune (treasure boat) with the seven on board was added. In Minato City the seven deities and the treasure boat are enshrined at following shrines and temples. Many people make a tour or mini-pilgrimage, visiting them one after another, especially during the New Year's holidays. The shrines and temples are all located within a three-kilometer square area near the

Roppongi and Azabu, offering a good two- to three-hour stroll over a total distance of some seven kilometers.

Shrine or Temple	Deity enshrined	Location
Hojuin Temple	Benzai-ten	4-8-55 Shiba-koen
Kumano Shrine	Ebisu	2-2 Azabu-dai
Jyuban Inari Shrine	Takarabune	1-4-6 Azabu Juban
Daihoji Temple	Daikoku-ten	1-1-1 Moto Azabu
Hikawa Shrine	Bishamon-ten	1-4-2 Moto Azabu
Sakurada Shrine	Jyurojin	3-2-16 Nishi Azabu-
Tenso Shrine	Fukurokujyu	7-7-7 Roppongi
Kyukoku Shrine	Hotei	2-1-16 Roppongi

You must have noticed that the above list consists of not only Shinto shrines but also of Buddhist temples. Why? Generally we attribute Buddha to temples and gods to shrines. The answer lies in the historical fact that Japan has uniquely merged Shinto with Buddhism. Let me take Daikoku-ten enshrined at Daihoji Temple as an example.

## The First Dream of the Year 2003 (cont.)

He was originally a Buddhist guardian deity and was incorporated with the image of Okuninushi-no-mikoto, one of the Japanese native gods, when he was introduced to the Japanese; he eventually became the god of agriculture as well as the god of the kitchen in the house.

The merger of the Japanese native religion Shinto with Buddhism was completed at an early stage in Japanese religious history. In “Nihon Shoki” (Japanese Imperial chronology compiled in 720), the chapter on Emperor Yomei says, “The Emperor believed in Buddhism and revered Shinto.” It proves that Shinto and Buddhism already coexisted in harmony and that the people didn’t find any contradiction in adopting both religions in their spiritual lives in ancient Japan.

What made this possible? My explanation is that, in addition to the basic standpoint of Buddhism being more tolerant than other religions such as Christianity or Islam, it also reflects the Japanese characteristic of being rich in flexibility and reverent of harmony.

Religious antagonism and expulsion have often been the main causes of war and conflict in the past and present world. The suppression by force of one party by another provokes the former into further hatred and repulsion. And

the handing down from generation to generation of these feelings of hatred and repulsion will never lead to a permanent peace. When I think about the discord and struggle taking place in the world today, I ask why we shouldn’t suggest that the world adopt this traditional Japanese spirit of merging two religions by respecting their differences and trying to integrate and harmonize them.

Last year, South Wind sent out questionnaires on how to promote international exchange in the 21st century and the results were reported in South Wind No. 36. To summarize, we used the phrase, “We should respect and cooperate with each other, regardless of nationality, race or culture. We also received various opinions and suggestions in this regard. One of them was that we Japanese should know more about our own culture and history and transmit it around the world. I entirely agree with this opinion. Why shouldn’t we reflect Japanese culture based on the merged Buddhism and Shinto and have enough confidence to transmit it to the world?

My first dream in 2003 is for us Japanese to contribute to the permanent peace of the world by transmitting our unique culture.

[Translated by: Y. NAKANO]

### 2003 年的初梦 - 港区七福神和神佛习合 (合二为一)

翻译委员长 清泽 畅人 (日本)

大黑天 (厨房神、灶神)、惠比须 (财神爷)、毗沙门天 (毗沙门天王)、辩才天 (辩才女神)、福祿寿、长寿老人 (老寿星)、布袋神 (弥勒佛) 作为七个福神被众所周知。信奉这七个福神先是在室町末期被兴起地。特别是到了江户时代, 围绕着这七个福神出现了作为装饰用的宝船上载着七个福神的画之类的作品。在港区也有祭祀七福神和宝船的神社和寺庙。至今每逢正月还举办「巡访港区的七福神」的活动。全程大约 7 公里左右、正好也是长跑 2 ~ 3 小时的路程。

寺社名	祭祀的神佛	所在地
宝珠院	辩才天	芝公园 4-8-55
熊野神社	惠比须天	麻布台 2-2
十番的稻荷神社	宝船	麻布十番 1-4-6
大法寺	大黑天	元麻布 1-1-1
冰川神社	毗沙门天	元麻布 1-4-2
樱田神社	长寿老人	西麻布 3-2-16
天祖神社	福祿寿	六本木 7-7-7
久国神社	布袋	六本木 2-1-16

在这里值得注意的是, 不知道大概是因为什么不光是在神社即便是在寺庙里也供奉着「七福神」。一般来说, 是在寺庙里供奉菩萨地, 而在神社里供奉地则是神。这里面有在我们国家所独具有地「神佛习合」的传统的历史背景。比如在大法寺里供奉着的「大黑天神」从来就是佛教的守护神。而进入日本后与日本的古神「大国主神」折合而成为农业神 (也是厨房的神仙) 了。

「神佛习合」就是日本所古有的对神的信仰与后来传入日本的佛教的融合体。早在公元 720 年就编成

的「日本书记」第 21 卷中的用明天皇纪内「天皇信佛法、尊神道」中所记载的。其实早在很久以前一直持续到今天, 神道和佛教就已经互不排斥地融合在我们生活中, 为大家所信奉。

为什么会出现这种可能呢? 我认为大概是在根本上, 佛教与基督教还有伊斯兰教之间相比之下, 佛教在本质上极具有宽容性的特点、在与日本人的品行中所具有的「宽厚、仁和」里面起了很大作用。宗教上的对立、排斥等在今天已成为世界上许多战争及纠纷的根本原因。这种状况一直延续到今天, 这样的纷争即便是一方凭借着力量将对方压倒, 也只会助长对方更大的仇恨和反抗, 并且这种仇恨和反抗一直延续到子孙后代, 这样的话就永远也不会和平。着眼于此, 我觉得「神佛习合」中所提倡地既承认相互之间的不同又能融合贯通与一体的精神, 不正是我们所追求的吗?

在去年的「South Wind」里, 题为「21 世纪的国际交流」的调查报告 (参照 South Wind No. 36)。作为 21 世纪的国际交流。首当其冲的口号是「排除国籍、人种、文化的不同, 大家相互之间互相尊重并合作」, 为了实现这句口号, 我们日本人应做些什么, 对此也提了不少建议, 诸如日本人应当加倍学习自己本国的文化及历史, 让日本文化散布到世界各地去之类有趣的方案, 对此我本人完全赞同, 作为我 2003 年的初梦, 也为了能为世界永久地和平做出一点微薄的贡献, 我要充满信心地将日本文化的精髓「神佛习合」的精神推广至世界各地去。

[翻译: 王 晓菁]

## 港区今昔—港区の大名の墓 その 11 東禅寺

なか こういち（日本）

「日本の三大敵討ち」に関わる人々が眠る寺が港区内にあるのを知っていますか。

東禅寺（高輪 3・16・16）臨済宗妙心寺派である。

同寺は我が国初の「イギリス公使館」が置かれた寺として著名だ。幕末期の攘夷運動が高まる中で、この寺も刃傷事件にたびたび巻き込まれた。1860年、門前で日本語通詞の伝吉が刺殺されたことは、SW 35号「光林寺」で紹介した。その後2度も攘夷を唱える浪士の襲撃事件が起きた。

幕末期の事件は歴史の教科書に載り、周知の事実になっている。

史実だがあまり知られていない東禅寺のことを探ってみよう。

開山は赤坂霊南坂に名を残す嶺南和尚で、1636年に当地に移ってきた。かつては境内3万坪余りと塔頭5寺を有し、壮麗広大を極めた名刹である。

泉岳寺と同様に大名の檀家が多く、22家あったと言う。だがイギリス公使館になったので、外国人を汚れとして嫌い、霊廟を持ち去り離壇する大名が増えた。明治維新の頃は経済事情も困窮し、山門が倒壊寸前になっても修理出来なかった。

この寺の墓域に三大敵討ちに関係のある大名が眠っているのである。

昨年2002年は赤穂浪士が討ち入ってから300年になり、日本国中が『忠臣蔵』ブームにわいた。この事件の重要関係者が一人ここに葬られている。

墓所は一般に公開されていない。「墓碑は先祖の霊を弔うためにあり、史跡探訪や観光のためのものではない」と住職がおっしゃる。SW記事連載の趣旨を説明し、特別に許可を得て施錠された門扉に入る。

ここには伊達家一族の広大な墓域があった。仙台62万石伊達家は改葬整理され「仙台伊達家諸霊之墓」とある唐破風型墓碑一基のみである。

低い石堀に囲まれて五輪塔が林立する。仙台の支藩の伊予宇和島、伊達10万石（愛媛県宇和島市）と、その支藩伊予吉田、伊達3万石（愛媛県吉田町）の藩主、正室、子女の墓10数基が建つ。宇和島藩は正宗の長男・秀宗が藩祖になった。吉田藩は秀宗の子が分家して出来た。これら伊達一族はいずれも明治維新まで続いた。

吉田藩3代藩主の村豊（むらとよ）の五輪塔もある。『忠臣蔵』は浅野長矩（ながのり）が勅使のご馳走役に命じられたことから始まる。そのとき院使のご馳走役になったのがこの大名である。『仮名手本忠臣蔵』の桃井若狭之助のモデルになった。芝居では大序から三段目までの重要な役どころである。

史実なのかどうか分からないが、家臣が吉良に賄賂を贈ったので、役目を全う出来たと今日に伝えられている。

人形浄瑠璃、歌舞伎、講談、映画の題材に『曾我もの』がある。『忠臣蔵』と並んで人気が高い。曾我兄弟が艱難辛苦の末に親の敵、一族の工藤祐経（すけつね）を討つ物語だ。

殺された祐経の7世の子孫、祐丘（すけたけ）が日向飢肥（おび）、伊東家5万石（宮崎県日南市）の藩祖になった。祐丘の子、2代藩主祐慶（すけのり）が当寺の開基である。

段丘に石段が整備されている。下から見上げると中央に低い石門がある。正面に7基、左に8基、右に1基の宝篋印塔が並び建っている。正面中央に「東禅寺殿前匠作泰雲玄興大居士」と刻み、脇に当寺の開基であることを記した石碑が建てられている。

正面と左に並立するのは歴代藩主の大きな印塔である。他にも正室、子女など30基以上を数える。左の印塔に「合同船」と刻まれているのが珍しい。傍らの墓碑銘によると、6名の正室らが合祀されている。

あの敵役、工藤祐経の末裔がこの寺の開基で、その法名から「東禅寺」と命名されたことを知る人は多くないだろう。

小高い丘を登りつめる。墓地の最奥の広い墓域が備前岡山、池田家31万石（岡山県岡山市）とその数多い支藩の池田家の墓域だった。平成4年に改葬整備され、現在は2基の笠塔婆「岡山藩主池田家諸霊位之墓」「池田家諸霊位墓」のみが建つだけである。

三大敵討ちの最後に登場するのが、『伊賀越えの敵討ち』である。この岡山藩の家臣の渡辺数馬が、姉婿の荒木又右衛門の助太刀で、同藩の河合又五郎を伊賀上野の鍵屋の辻で討った。この敵討ちは河合側に旗本が味方したりして、池田藩主を巻き込んだ事件になった。

この事件は他の二つの仇討ちと同様に、『伊賀越えもの』として脚色された。なかでも『伊賀越道中双六』が有名である。

他にも大名家の墓が多い。有楽町に名前を残した織田有楽斎（信長の弟）の5男、尚長（なおなが）大和柳本（奈良県天理市）1万石の唐破風型墓碑もある。

主な大名家の墓を列記しておく。

信濃高島藩、諏訪家3万石（長野県諏訪市）

豊後佐伯藩、毛利家2万石（大分県佐伯市）

豊後臼杵藩、稲葉家5万石（大分県臼杵市）

大名家ではないが、江戸期の蘭学者・大槻玄沢、その子の盤溪、辞書『言海』の著者大槻文彦ら大槻家の墓もある。

冬の短日が傾いてきた。境内を振り返る。三重塔の優雅なシルエットが見える。大名家は武家である故に、敵を討ったり、討たれたりの血生臭い事件の影を引き摺っている。だが数百年の時間を経て、今はこの禅寺の静謐さの中に無言で眠っていた。

## Look into Minato City—The Tombs of Feudal Lords (11)

Koichi NAKA (Japan)

Are you aware that people related in one way or another with all three of the best known revenge stories in Japanese history are buried at a temple in Minato City? The temple is Tozenji Temple of the Rinzaï Zen sect (3-16-16, Takanawa).

This temple is widely known as the place where the first British Legation was established in Japan. Tozenji was often involved in affairs of bloodshed during the last part of the Edo period, when there was a growing cry for expulsion of foreigners. I already referred to Denkichi, an interpreter assassinated in front of the British Legation in 1860 in the article about Korinji Temple (SW 35). After the assassination, groups of Ronin (masterless samurai) attempted to attack the Legation twice, calling for the expulsion of foreign people. All these incidents are recorded in Japanese history textbooks and are known to the public.

Now I would like to invite you to look into some less commonly known historical facts about Tozenji Temple.

The Temple was originally founded by the priest Reinan, for whom Reinanzaka slope was named, and relocated to this place. Once it was a famous and grandiose Zen temple, having five subsidiary temples within its precincts of more than 9 hectares.

Just like Sengakuji Temple, many Daimyo (feudal lords) supported Tozenji and once there were as many as 22. However because it was used as the British Legation, quite a few of them departed, taking their family tombs from the sites, indicating their strong feeling that their families would be disgraced by coexistence with westerners. These circumstances led the Temple into serious financial difficulties and it could not even afford to restore the severely damaged main gate in the beginning of Meiji period.

Among those who rest in peace in the temple graveyard are three Daimyo related in some way to the three best known revenge stories in Japan.

Last year (2002) was the 300th anniversary of the incident, in which 47 Ronin from Ako Province avenged their late lord by killing KIRA; this anniversary created a “Chushingura” boom throughout Japan. One of the important figures in this episode is buried here.

The graveyard is not open to the public. The chief priest of Tozenji says, “The graveyard is a place to pray for the repose of the deceased. It is not for historic interest or tourism.” However, when I explained my intention of including Tozenji in my series in South Wind, the gate was finally unlocked and I was permitted to enter the graveyard. There used to be a huge burial ground for the family of Lord DATE. Today the individual tombs for the DATE clan, holders of 620,000-goku\* worth of property in Sendai Province (present Sendai in Miyagi Prefecture), are unified into a single tombstone roofed with a Chinese gable and engraved with the words, “Tomb for all the souls of the DATE Clan in Sendai.”

\* One goku is equivalent to the amount of land required to grow rice (180 liters) to feed one person for one year.

More than ten five-storied stone pagodas stand in an area surrounded by low stone fences. They are for the subsidiary families of the DATE Clan in Sendai. The DATE clan in Iyo Uwajima Province with 100,000-goku worth of property (present Uwajima in Ehime Prefecture) and the DATE clan in Iyo Yoshida Province with 30,000-goku

worth of property (present Yoshida-cho in Ehime Prefecture) were respectively founded by a son and a grandson of DATE Masamune of Sendai. These pagodas are for their successive lords, their spouses and children. All these DATE clans survived until the Meiji Restoration.

Among these pagodas, there is one for the third lord MURATOYO of Yoshida Province. The “Chushingura” incident started when the Shogun assigned ASANO Nagamori to entertain the Emperor’s official envoy to the Shogun. On this occasion, there was another protagonist who was involved in this bloody affair. It was this MURATOYO who had been ordered by the Shogun to entertain the envoy of the retired emperor, “In”.

Later he became the model for MOMOI Wakasanosuke in the story “Kanadehon Chushingura”. He is an important character who appears in the first three scenes in the Kabuki drama. Thanks to the wisdom of his faithful subordinate who had bribed KIRA, he was able to accomplish his duties according to the dramatized story.

Another popular revenge story for Joruri puppet plays, Kabuki dramas, story-telling entertainment and movies concerns the SOGA brothers. Two SOGA brothers succeeded in avenging their late father by killing one of their kinsmen, KUDO Suketsune, after overcoming various problems and difficulties.

Suketaka, of the seventh generation after the murdered Suketsune, became the first feudal lord of the ITO clan with 50,000-goku worth of property in Hyuga-Obi (present Hyuga in Miyazaki Prefecture). And his son Sukenori was the one who sponsored the establishment of our Tozenji Temple.

Stone steps lead up to his tomb. Looking up from the bottom of the steps, I see a low stone fence in the center of the higher ground. Inside there are 16 treasure-stone gabled pagodas, seven in the center, eight on the left side and one on the right side. The middle pagoda in the central group is inscribed with Sukenori’s posthumous name, starting with Tozenji, and a stone plate standing nearby says that it is for the founder of the temple. The rest of the big pagodas standing in the central and left rows are for the lords of the ITO clan. Some 30 tombs are for their spouses and children. I noticed a unique inscription that reads “A common boat.” According to the stele, six spouses of lords are buried together there.

Many of you may be surprised that a descendant of KUDO Suketsune, ancient enemy of the SOGA brothers, established the temple and that the temple was named for his posthumous name TOZENJI.

I go up to a small plateau where there is a compound for the graves of the IKEDA clan with 310,000-goku worth of property from Bizen Okayama Province (present Okayama in Okayama Prefecture) and their many subsidiary families. Their remains were reburied in 1992 and now rest under two gabled pagodas, one inscribed, “Tomb for the successive lords of the IKEDA clan of Okayama,” and another, “Tomb for the souls of the IKEDA family.”

The last episode I would like to mention is popularly known as “Revenge crossing over Iga mountain pass.” WATANABE Kazuma, a subordinate of Lord IKEDA, was assisted by ARAKI Mataemon, his brother-in-law

### Look into Minato City—The Tombs of Feudal Lords (cont.)

and a master swordsman, and succeeded in avenging his brother on his colleague KAWAI Matagoro, at the street corner where there was a tea-house or inn named Kagiya in Iga-Ueno. This revenge involved some Hatamoto, direct subordinates of the Shogun, who supported KAWAI, and eventually Lord IKEDA himself. This story, as the other two incidents described above, was dramatized as the “Iga Pass series” and became one of the three most popular revenge stories in Japanese history.

In the graveyard of Tozenji Temple, there are many more tombs for different Daimyo. ODA Naonaga with 10,000-goku worth of property from Yamato Yanagimoto Province (present Tenri of Nara Prefecture) is the fifth son of ODA Urakusai, brother of ODA Nobunaga. The name ODA Urakusai remains today as Tokyo’s Yuraku-cho.

The following are some other feudal Daimyo clans who rest in peace in Tozenji:

SUWA clan, 30,000-goku in Shinano-Takashima Province (present Suwa in Nagano Prefecture)

MORI clan, 20,000-goku in Bingo-Saeki Province (present Saeki in Oita Prefecture)

INABA clan, 50,000-goku in Bingo-Usuki Province (present Usuki in Oita Prefecture).

Besides Daimyo, another distinguished family name inscribed on the tomb is OTSUKI. OTSUKI Genpaku and his son Bankei were well known scholars of Dutch studies in the Edo period and OTSUKI Fumihiko, authored “Genkai-Sea of Words,” a large Japanese dictionary.

Daylight doesn’t last long in winter. I looked back at the holy ground. An elegant three-storied tower soared in silhouette against the glow of the evening sky. Many Daimyo were involved in bloody incidents, killing or being killed in the name of revenge, simply because of the honor of heading a samurai clan. A few hundred years have released them from their worldly bondage and they all rest in the silence of this Zen temple.

[Translated by: Y. NAKANO]





您是否知道与「征讨日本三大敌」有关的人物都长眠在港区内的寺庙里。临济宗妙心寺派的东禅寺就是之一。

东禅寺作为我国最初的「英国公使馆」而出名的。幕府末期攘夷运动的热潮中。这所寺庙也三番五次地被卷入刺杀事件中。1860 年的寺庙山门前日本语翻译传吉被刺杀之事，SW35 号「光林寺」中已介绍过了。此次事件之后又发生过两次提倡攘夷的浪人被袭击事件。幕府末期发生的诸如此类的事件在历史教科书中也有记载。已为世人所知，今天就试着探访一下在事实上还未完全被人所知的东禅寺。

东禅寺的开山和尚是 1636 年移入此地。在赤坂灵南坂留有名的岑南和尚。东禅寺曾经也是一座大有 3 万多坪，佛塔 5 座、壮观宏伟的名刹。

和泉岳寺一样，东禅寺也有 22 家大名佛教信徒。但因为成了英国公使馆后，因把外国人当作不洁之物而讨厌，从而带走灵庙和寺庙断绝关系的大名也不少。到了明治维新的时候寺庙陷入困境。山门都快要坏得倒了也无法修理的地步。

这所寺庙的墓区里长眠着与征讨三大敌有关的大名们。

到 2002 年，已是浪人赤穗征讨仇敌 300 年了。日本国也因此掀起了「忠臣藏」的热潮。这个事件的重要人物之一就葬于此庙。

墓位一般是不被公开地。据寺庙的大和尚说「墓碑是为了哀悼先祖之灵而设的，不是为了探访史迹和观光用地」当说明了是为了 SW 的连载报道后，于是得到了特别的许可，进了这扇早已被锁关闭的大门。

这里一片就曾曾是伊达族的墓区。题为「仙台伊达家诸灵之墓」的仙台 62 万石伊达家墓只是一座经改葬并整理过的唐破风型墓碑而已。

被低低的石墙围绕着的五轮塔高高地耸立在这儿。仙台的支藩伊予宇和岛的伊达 10 万石（爱媛县宇和岛市）和它的支藩伊予吉田的伊达 3 万石（爱媛县吉田町）的藩主、正室及其子女的墓有十多座都在这儿。正宗的大儿子秀宗成了宇和岛藩的藩祖后，吉田藩便是秀宗之子的新地盘，这种分割状况一直持续到明治维新为止。

吉田藩的第三代藩主村丰的五轮塔也在此寺。「忠臣藏」中浅野长矩被任命为皇帝特使的接待者。那时先皇的使者的接待者就是这位后来成为「假名手本忠臣藏」里的桃井狭之助原型的大名，在舞台戏中是从序幕到第三幕为止的重要角色。

不知是否是史实，据说是因为家臣贿赂了吉良，才一直能扮好这个角色。

人形净琉璃、歌舞伎、讲论（说评书）、电影的题材中都有「曾我物」这出戏，和「忠臣藏」一样备受欢迎。曾我兄弟历经艰难终于将父母的敌人，家族成

员中的工藤吕祐经除掉的故事。

被杀了的祐经的七世的子孙祐丘成了日向饫肥伊东家 5 万石（宫崎县日南市）的藩祖后，祐丘的儿子第二代藩主祐庆便是这所寺的奠基者。

斜坡上的阶梯是用石头整整齐齐地铺成的，从下面看上去中央是低低的石门。你可见墓碑正面有 7 座、右面有 8 座。右面的 1 座则并排建有宝篋印塔（供养塔）。正面中央刻着「东禅寺殿前匠作泰云玄兴大居士」、侧面立着记载着当年此寺奠基时的情况等等的石碑。

正面和左侧并排立着的是历代藩主的大印塔，妻室子女的墓碑也有 30 座以上。左边的印塔上依稀可见「合同船」这几个字。根据旁边墓碑上的记载，可以推知有 6 名正室与其合葬在一起。

恐怕不会有人知道因为是那个叫工藤祐经的末裔奠基了这所寺庙，所以「东禅寺」也是由他的法号而取名来的。

爬上了不算低的山坡，墓地最深处的一片墓域是备前冈山池田家 31 万石（冈山县冈山市）和所属于他的许多支藩的墓。平成 4 年时经整修改葬后，现在只有笠塔婆「冈山藩主池田家诸灵位之墓」和「池田家诸灵位墓」这两座墓碑耸立在那儿。

征讨三大敌中最后登场的是「过伊贺征讨仇敌」这一场面。冈山藩的家臣渡边数马在姐夫荒木又右卫门的助阵下，在伊贺上野键屋的十字路口，和同藩的河合又五郎展开了冲杀。这场战争因为河合又五郎同直接侍奉将军的武士有勾结，成了导致池田藩主也被卷入的争斗。

这场战斗与另外二场战斗一样经加工后成为题为「过伊贺之人物」的作品。这里面尤为「伊贺越道中双六」有名。

此外别的大名的墓也很多。唐破风型墓碑就有在有乐町前留有名的绪田有乐齐（信长之弟）的 5 男，尚长大和柳本（奈良县天理市）1 万石的墓也在这儿。以下所列就是主要几位大名的墓位：

信浓高岛藩，諏访家 3 万石（长野县諏访市）

丰后佐伯藩，毛利家 2 万石（大分县佐伯市）

丰后臼杵藩，稻叶家 5 万石（大分县臼杵市）

尽管不是大名出身，但也有墓碑在此的便有江户时代的兰学者大槻文彦等大槻玄泽和他的子孙盘溪及辞典「言海」的作者大槻文彦等大槻家族的成员。

冬天天黑得早，看着看着太阳渐渐西斜，回头再看一眼寺内，可见三重塔优美的轮廊。似乎还拖着那些大名家因为是武士家族的缘故而互相残杀，血腥味很浓的事件的影子。但经几百年光阴的流逝，今天这一切都似乎无声地长眠在禅寺的静寂中似地。

[翻译：王 晓菁]



Minato  
International  
Association



Minato  
International  
Association



Minato  
International  
Association



Minato  
International  
Association

## MIA 青少年国際理解講座シリーズ NIS ウィンターコンサート

Lewis Lam (16) (ニュージーランド)

コンサートは「すばらしい」の一言(ひとこと)でした。ゆっくりとした歌もありましたが、わたしが特に感銘を受けた曲は、「ブルームーン」と「ライティング・ア・キャンドル」です。澄んだ子どもたちの歌声がすばらしい雰囲気をかもし出しています。全体を通して、すてきなコンサートでした。生徒たちにはもちろん貴重な体験となったでしょうし、自分の子どもの才能を見出したご両親たちにも、すばらしい機会となったことでしょう。

わたしにはいつまでも思い出に残る感動となりました。

ご招待くださった西町インターナショナル・スクール及び港国際交流協会の方々にたいへん感謝しています。

心からお礼を申し上げます。

【翻訳：成田 直輝】

## M.I.A. Youth International Understanding Lecture Series—NIS Winter Concert

Lewis Lam (16) from NZ

One word says it all. Beautiful! Some songs were rather slow but “Blue Moon” and “Lighting a Candle” I found most impressive. The voices of children singing so pure gives this wonderful feeling.

Over all, it has been a spectacular concert. Great opportunity for the students, a fantastic chance for parents to discover talents in their children.

It has been an experience to remember.

I thank you much Nishimachi International School and the Minato International Association for inviting me.

With sincere thanks and best wishes,

Lewis Lam

## 记：M. I. A. 青少年国際理解講座—NIS 冬节音乐会

Lewis Lam (16 才) 新西兰

「音乐会真是好极了」用这一句话全部包括进去了。有轻音乐，但是给我留下特别最受感动的歌是，「蓝色的月亮」和「蜡烛光」。同学们的优美歌声，给全场带来了特别的气氛。这音乐会真是精采极了。同学们能体验到这样珍贵的音乐会，而且学生们的家长们也亲眼看到了自己孩子的有才能的演出。

我会一直记住：有这样使人非常感动的精采的音乐会。

在此我感谢：招待我的西町国际学校和港区国际交流协会的全体人员，从心底里表示感谢。

[翻译：石井 通惠]







### 青少年国際理解講座 西町インターナショナルスクール・ウィンターコンサート見学会 光

阿部 麻理子 (16 歳)

「悲しみを喜びにするために、人生に希望をもたらすために、長い冬の夜明けが約束されますように」

この言葉は最後に全校生徒の方々が歌った「一本のろうそく、ひとつの火」という曲の歌詞です。今回のコンサートのテーマは「光」。また前は 9.11 事件を受けて「平和」でした。私は毎回テーマに基づいてさまざまなメッセージを与えてくれるウィンターコンサートが大好きです。

発表の表現は多種多様であり、特に今回は 9 年生の方々が光のイメージを視覚的（画像をスクリーンに映す）に表していて、音楽の新たな一面を知ることができたことを嬉しく思います。

今回、ウィンターコンサート見学会に関わった M.I.A. の方々をはじめ、すべての方々に感謝します。

### Lecture for International Understanding for Youth Winter Concert at Nishi-machi International School 'LIGHT'

Mariko Abe (16 yrs)

To make joy out of sadness

To bring hope to a life

Like the promise of the dawn after a long winter's night.

These words are the lyrics of a song 'One Candle, One Flame (words & music by Linda Sobo) which all the students sang at the end of the concert.

The theme of this concert was 'LIGHT'. The last time it was 'PEACE', in connection with the events of September 11th. I really love the kind of winter concert that gives us various messages based on a theme.

There are many ways to convey a message, and especially this time, the 9th grade students expressed the image of light visually by using a screen reflecting pictures. I was very glad to experience this different aspect of presenting music.

I am very grateful to the MIA staff and all the people who were involved in the winter concert tour on this occasion.

[Translated by: R. TAKEUCHI]

### 青少年国際理解講座：记参加西町国际学校冬季音乐会：光

阿部 麻理子 (16 才)

「有悲伤就有欢乐，人生总有将来，漫长的冬天，总带来春天」这话是在最后全校同学们唱的「一支蜡烛、一个火」的歌词。今回は「光」、为主题、上次受 9.11 事件影响主题是「和平」。我很喜欢有主题的音乐会。因它有各种各样的表现形式。影响特别深的是 9 年级的同学在银屏上出现的「光」，使我对音乐又有一个新的认识。而感到非常高兴。

在此非常感谢，这次能使我参加此音乐会的 M. I. A. 以及有关的全体人员。

[翻译：石井 通惠]

## スティーヴンス・ハルミのアメリカ便り (33) ジョージア州のもう一人のノーベル平和賞受賞者

【2002年12月12日】

2002年12月10日、ジョージア州、プレーン市出身の、ジミー・カーター元アメリカ大統領は、ノルウェーのオスロ市にてノーベル平和賞を受賞しました。ノーベル平和賞は、世界平和と地球上のすべての人の人権を求めてたゆまない努力を続けてきた彼の功績に与えられたのでした。アトランタにあるジミー・カーター図書館には彼の支持者や彼と共に活動をしている人たちが大きなスクリーンの前に集まり、写し出されるオスロでの式典の様子を衛生中継で見守りました。そして彼が今でも住む、彼の出身地プレーンでは、彼の家族、友人の他、たくさんの関係者が集まり、やはり衛生中継でこの受賞式の様子を見守りました。受賞式はアトランタの現地時間（東海岸標準時間）で午前7時から始まり、地元のテレビでも生中継で報道されました。一度ならず二度も自分たちの州からノーベル平和賞受賞者が出るという、それは、ジョージア州の人びとにとって極めて誇らしい出来事だったと言えるでしょう。

1964年、ジョージア州アトランタ出身のマーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師は35歳という若さでノーベル平和賞を受賞しました。彼のノーベル賞受賞は史上最若年であり、ジョージア州としては初めての受賞者を出したのでした。キング牧師がアラバマ州のモンゴメリー市で市バスの人種的無差別待遇実現に成功してから、彼の説く非暴力の公民権運動は、アメリカ南部の人種隔離政策の解除、黒人たちの人権確保を求めてどんどん広がっていました。

ノーベル賞受賞のために訪れたキング牧師をヨーロッパはまるで王様の様に丁重にもてなしましたが、彼の生まれ故郷であるここアトランタでは、この公民権運動のリーダーに敬意を表する者は少なかったのです。黒人たちの間では自分たちの街からノーベル平和賞の受賞者が出たことに喜び興奮していたのに対して、一部の白人たちの間では彼らにとって民衆扇動家でしかないキング牧師にノーベル賞が与えられることに激怒していました。

ノーベル平和賞がキング牧師に与えられることが発表されると、キング牧師の支持者たちはすぐにお祝いのための宴会を計画し始めました。百通以上の招待状が街の著名人たちに送られました。キング牧師の功績を祝おうという、小宗教団体のリーダーや、市民のリーダーたちの呼びかけに反して、祝宴出席の返事はなかなか返って来ませんでした。

スティーヴンス・ハルミ

ニューヨーク・タイムズ新聞には、ある有力な銀行家が方々に電話をかけて祝宴に誰も出席しない様、働きかけているという記事も載りました。

キング牧師の受賞に敬意を示すべきだ、と感じていたその当時のコカコーラの最高経営責任者、J. ポール・オースチン氏と当時アトランタの市長であったアイバン・アレン氏の二人は、ビジネス界でのアトランタの重要人物ばかりを商工クラブの18階にあるダイニング・ルームに呼び出しました。オースチン氏はそこできっぱりとこう言いました。「コカコーラにとって自分の街から出たノーベル賞受賞者に敬意を示すことができない様な所に本社を置いている事は大変な恥である。私たち（コカコーラ社）は国際的なビジネスをしていることを忘れないで欲しい。コカコーラにとってアトランタなど必要ではないが、アトランタにとってコカコーラ社が必要かどうか君たちは良く考えてくれたまえ」。

この会合の後、2時間以内にすべての（祝宴の）チケットは売り切れました。

アトランタの白人エリートたちは最後の間際になって残り少なくなったチケットを手に入れるために大慌てをし始めました。当日、アトランタのダウンタウンにあるデインカー・プラザ・ホテルには1500人以上が祝宴に集まりました。一部の人の間では、いかなる人種混合も許さない超保守的なグループの暴力行使が心配されていました。祝宴のあったホテルの外ではデモや暴力による反対運動に備えて警官達がガードを固めていましたが、その様な暴力事件は全く起こらず、祝宴は成功のうちに終了しました。その夜は、アトランタの街にとって、一つの大きなターニング・ポイントとなったのでした。

ジミー・カーターは受賞後のスピーチの中で公民権運動とマーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師について触れました。彼は、キング牧師と交友があったことは誇りであり、キング牧師と同じ賞を受賞できたことで自分の栄誉が高められたと感じていると述べました。ジミー・カーターは数多く存在する、マーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師に大きく影響を受けた人の一人なのです。

12月10日、オスロで、ジミー・カーターがノーベル平和賞の賞状とメダルを受け取ったとき、果たしてジョージア州では何人の人がジョージアにとってそれが、二度目のノーベル平和賞受賞のお祝いであったことに想いを馳せたのでしょうか。

## A letter from the U.S.A. (33) Georgia's Other Nobel Peace Prize Laureate

Harumi STEPHENS

[December 12, 2002]

On December 10th, 2002, a former President of the United States of America, Jimmy Carter, from Plains, Georgia, received a Nobel Peace Prize in Oslo, Norway.

The Nobel Peace Prize was awarded to him for his untiring effort to pursue world peace and human rights for the world community. At the Carter Center Library in Atlanta, many of his supporters and people who work closely with him, gathered in front of a big screen to witness the ceremony in Oslo via satellite. In his hometown, Plains, where Jimmy Carter still resides, his family, friends, and many of his supporters also gathered to see him accept the prize via satellite. The ceremony started around 7 AM eastern standard time, and it was broadcast live on television in Atlanta. It was such a proud moment for Georgians to have a Nobel Peace Prize winner from the State of Georgia not only once but twice.

In 1964, Rev. Martin Luther King Jr. of Atlanta Georgia received the Nobel Peace Prize at the age of 35. He was the youngest ever to receive the prize and the first from the State of Georgia. Since King succeeded in integrating city buses in Montgomery, Alabama, the nonviolent civil rights movement spread rapidly in the American South, seeking desegregation and equal rights for African Americans.

In Europe, Rev. Martin Luther King Jr. was treated like royalty when he received the Nobel Peace prize medal. However, here in Atlanta, his native city, this civil rights leader was treated almost without honor. While the black community in Atlanta was thrilled and proud that the peace prize was awarded to someone from their community, some whites were outraged that the peace prize was awarded to someone they considered a rabble-rouser.

Shortly after they announced that the Peace Prize was going to be awarded to Rev. Martin Luther King Jr., King supporters began planning a celebratory banquet. More than one hundred invitations were sent out to prominent city leaders. While a small group of religious and civic

leaders urged Atlantans to celebrate King's achievement, responses to the celebratory banquet to honor King were coming in slow. The New York Times reported that one high level banker made phone calls to discourage participation.

J. Paul Austin, the chairman and CEO of Coca-Cola, and the Atlanta Mayor, Ivan Allen who believed that King deserved the honor, summoned key Atlanta business leaders to the Commerce Club's eighteenth floor dining room. Austin told them flatly, "It is embarrassing for Coca-Cola to be located in a city that refuses to honor its Nobel Prize winner. We are an international business. The Coca-Cola Co. does not need Atlanta. You all need to decide whether Atlanta needs the Coca-Cola Co." Within two hours of the end of that meeting, every ticket to the dinner was sold.

Suddenly, at the last minute, the city's white elite were scrambling for the few tickets left. More than 1,500 people crowded the Dinkler Plaza Hotel in downtown Atlanta for the banquet. Some people expressed the fear of violence from ultraconservative groups that opposed anything that was inter-racial. The police were outside the hotel to control picketing or in the event of possible violent protest. However, such violence never took place. The event was a success. That evening Atlanta witnessed one of the important turning points for the city.

In Oslo, during the acceptance speech of the Nobel Peace Prize, Jimmy Carter touched on the civil rights movement and Rev. Martin Luther King Jr. He said that he was honored to be associated with King, and having won the same prize was a great boost to his prestige. Jimmy Carter was one of many people influenced by Rev. Martin Luther King Jr.

On the 10th of December, when Jimmy Carter received the diploma and a medal for the Nobel Peace prize in Oslo, I wondered how many Georgians remembered that this was a celebration of Georgia's second Nobel Laureate.



[2002 年 12 月 12 日]

2002 年 12 月 10 日，佐治亚州布林市出身的前美国总统吉米・卡特在奥斯路被授予了诺贝尔和平奖。为表彰为寻求世界和平和全球所有人们。人权而不懈努力的卡特的功绩而授与他诺贝尔和平奖。在亚特兰大的吉米・卡特图书馆，他的支持者以及与他共同活动的人们聚在大屏幕前，通过卫星实况传播观看了在奥斯路举行的颁奖仪式。而且在他的出生地也就是他所住的布林，他的家人、朋友以外，众多的有关人士聚集一堂、也通过卫星实况传播观看了颁奖仪式。颁奖式在亚特兰大当地时间（既东海岸标准时间）上午 7 点开始，当地的电视台也进行了实况传播。不只是一次而是两次从自己州产生诺贝尔和平奖得主，对佐治亚州的人们而言可以说是极其自豪的事情。

1964 年，佐治亚州亚特兰大出身的马丁・路德・金牧师以 35 岁的年轻荣获诺贝尔和平奖。他是诺贝尔有史以来最年轻的得主、也是佐治亚州第一位获奖者。金牧师改变两亚巴拉马州蒙哥玛丽市的公共汽车的种族歧视，在这之后，他所提倡的非暴力公民权运动、逐渐解除了美国南部的种族隔离政策，确保了黑人的人权。

因获诺贝尔奖而出访欧州的金牧师受到了象国王一样的礼待。而在他的出生地既故乡亚特兰大，向这位公民权运动领袖表示敬意的人却很少。一方面在黑人中间，因从自己的城市产生诺贝尔奖得主而感到兴奋而在一部分白人中间、对他们而言给予只不过是一位煽动家的金牧师诺贝尔奖而激怒。

诺贝尔和平奖授与金牧师一事发表之后，金牧师的支持者们计画进行庆祝宴会。数百张以上的招待券寄与了城里的著名人士们。为表彰金牧师的功绩小宗教

团体的领袖，市民领袖进行了宣扬、而表示出席宴会的回信却迟迟不到。纽约时报上还登出了这样的新闻、某个大银行家给人们打电话要求谁也不要出席这个宴会。

当时可口可乐的最高经营者奥其金和亚特兰大当时的市长阿林感到应该对金牧师表示敬意。他们把亚特兰大商界的重要人物招集在商工俱乐部 18 层的晚礼堂。奥其金直言了当地说对可口可乐而言把公司总部设在了不能对自己城市出身的诺贝尔奖得主表示敬意一事而感到耻辱。希望大家不要忘记我们是进行国际商贸的。对可口可乐而言亚特兰大并不重要的，而对亚特兰大而言可口可乐是否重要，希望大家想一想。

在这次碰头会之后，2 个小时以内，所有的宴会券都卖掉了。

亚特兰大的白人上层人物们在最后的搞到所剩无几的宴会券而忙乱一团。在当天，在亚特兰大有 1,500 人以上聚集在庆祝宴会上。有一些人担心保守的纯粹白人主义者的暴力行动。为防止示威和暴力行动警察们加强了在进行宴会的饭店的戒备。但所设想的暴力活动并没有发生，庆祝宴会成功的结束了。那个晚上，对亚特兰大而言是一个转折点。

吉米・卡特在授奖后的演说中谈及了公民权运动和马丁・路德・金牧师。他说为有金牧师为友而荣兴、而且能与金牧师得到同样的赏与感到荣誉。吉米・卡特是众多受到金牧师影响的人们中的一个人。

12 月 10 日在奥斯路，吉米・卡特领受了诺贝尔和平奖和证书。的确、在佐治亚州有人想，对佐治亚州的人第二次获得诺贝尔和平奖而沈醉。

[翻译：呼 群]

### 港区国際交流協会 交流サロンのご案内

参加者が自由におしゃべりする場として、隔月第三金曜日の夜、「交流サロン」を開いています。200 円程度のスナック菓子をご持参の上、ご参加ください。(Tel. 03-3578-3530)

4 月 18 日 (金) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分 港区役所 9 階 911 会議室

6 月 20 日 (金) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分 港区役所 7 階 712 会議室

### M.I.A. Friendship Lounge – Let's talk over a cup of tea!

We welcome your attendance at our M.I.A. Friendship Lounge. The 3<sup>rd</sup> Friday of every second month is your time to enjoy mutual understanding and communication between Japanese and non-Japanese residents. Feel free to visit the space. Please bring a snack worth 200 yen with you. (Tel. 03-3578-3530)

April 18 (Fri.), 18:30 – 20:30, Minato City Hall 9th floor, #911

June 20 (Fri.), 18:30 – 20:30, Minato City Hall 7th floor, #712

### 交流社交室信息

为了促进，外国人和日本人的交流，隔月第三个星期五番上，以下时间举办交流社交室，届时请邀请朋友一起参加。参加者请携带 200 日元左右的小吃参加。(Tel. 03-3578-3530)

4 月 18 日 (星期五) 下午 6:30-8:30 于港区区役所 9 层 911 会议室

6 月 20 日 (星期五) 下午 6:30-8:30 于港区区役所 7 层 712 会议室

## グアナファトからこんにちは！ (11) メキシコ便り

小野田 マサ子 (日本)

【2002年11月14日】

かれこれ15年前のこと、帰国の準備を進めているドイツ人夫妻の、どうして今帰国するのかとの問いに帰ってきた答えはたいへん厳しいものであった。いわく、子どもの教育のためです。彼らは日本の大学を大学と認めていないから。日本の4年制の大学を卒業しても、せいぜい高校卒程度の学力しか持っていないから、ドイツの大学卒と同等には認めない、と言った彼らに、私は返す言葉がなかった。そのときの無念さと恥ずかしさを今も忘れ得ないでいる。

この数年、韓国や中国の若者と接する機会を得たが、その誰もが一樣に、あと数年で自分の国は日本を追い越すと言う。なぜなら、日本の若者には国を背負っているのは自分たちだという気概がないからと。そして、その言葉を裏づけするように、最近の韓国の教育レベルの向上は目を見張るものがある。たとえば1999年にOECDが行った数学と理科の中学2年生のアチーブメントテストの結果を見ると、数学では韓国が第一位で日本が第二位、理科ではハンガリーが第一位で、日本、韓国と続いているが、日本と韓国の差はわずかに1点に過ぎない。

日本の大学生は今や勉強しないことで世界的に有名になっている。嫌いな科目は勉強せず少ない必須科目で大学受験をし、入学し、大学でも満足に勉強しないで卒業する。もちろん中には真剣に勉強

する者も当然いることはいるがその数は少ないと聞く。大学を卒業しても小学校で習う分数や小数の計算ができない大学卒が増えているという。日本は統計の上では高学歴国家に数えられている。確かに大学卒の人数は増えているが、その学力は確実に落ちているようである。

さて、メキシコではどうであろうか。ここでは、大学卒業に必要な要件を満たして初めて、論文試験に臨むことができ、論文試験に受かった者のみが学位を授けられる。そのため、大学修了者の数と学位取得者の数には大きな隔たりがあり、学位を取得したその日から、ことに職場では、学位名で呼ばれるようになる。大学卒の肩書きは、ここでは明治時代の日本の学士と同様の重みを持っている。そうしたわけで、誰かが学士号を受けると、パーティを開くのが慣例になっている。私の例で言えば、論文に関する面接試験を受け、その日のうちに宣誓の上、学位を取得した。私の学位取得を学長が報じたとたんに、表では鐘が鳴らされ爆竹が弾け、なんとも賑やかなことであった。そしてその日の午後、お世話になっているメキシコ人のファミリーが、私の名誉を祝して、70人ほどを招いたパーティを催してくれた。その日から、学内でもマエストラの資格を取った誰それ、というように紹介のされ方が変わった。修士号を得ている人の数が少ないためであろうが、少しこそばゆいような妙な気分である。

## Hello from Guanajuato (11) A letter from Mexico

Masako ONODA (Japan)

[November 14, 2002]

About 15 years ago, I asked a German couple who were ready to return to their country, "Why are you going back to Germany?" The answer was very harsh. They wanted to educate their children there, since they did not consider Japanese universities as "universities," because graduates of a Japanese four-year university did not have the level of knowledge of a German high school student; therefore they would not accept that Japanese university graduates are of an equal level with graduates of the German universities. I did not know how to reply to them. I still cannot forget the regret and shame I felt at that time.

In recent years, I had many opportunities of getting to know some young people from Korea and China. All of them said to me in the same way that their countries were going to surpass Japan within several years, since young Japanese did not have the guts to carry the future of their own country on their shoulders. And, as if to support their words, the educational level of Korea has progressed a great deal recently. For example, in the results of examinations in mathematics and sciences, that the OECD held in 1999, for students in the second year of junior high school, in mathematics, Korea occupied first place, followed by Japan; and in sciences, Hungary took first place with Japan and Korea following --- but the difference between Japan and Korea was only one point.

Japanese university students are now notorious around the world for not studying. They do not study subjects they do not like. They study a few required subjects for the entrance examination for a university, enter a university and do not study satisfactorily, but still graduate. Of course

there are some university students that do study, but I hear that they are the exceptions. It is said that although they have graduated from a university, an increasing number of graduates cannot even calculate the fractions or decimals that they should have studied in primary school. Statistically, Japan is counted as one of the countries with higher education. Certainly, the number of university graduates has increased, but surely the level of academic achievement has been falling down.

What is the situation of professionals in Mexico? Here, only those students who have met the requirements for graduation from the university are permitted to take the thesis exam; and then, only those students who pass that exam receive a degree. Therefore, there is a big difference among the number of graduates and those receiving titles. After the degree is obtained, people begin to address the person by his/her professional degree or title, especially in the work place. The university degree here has a value equivalent to "gakushi" in the Meiji era in Japan. For this reason, when someone obtains his/her degree here, it is customary to have a party. Citing my case as example, when I appeared for my thesis exam, that same day I obtained the degree under oath. When the director told me that I had received my degree, there was a great deal of noise outside; my friends rang a bell and set off firecrackers. That same day, my Mexican family gave a big party in my honor, inviting around 70 people. Since that day, even at my school, I have been introduced with my title, Master of Educational Research. I feel a little embarrassed to hear it, but it is probably because there are not many people who obtain a master's degree.

来自瓜纳华托的问候 (11) 墨西哥来信

小野田 Masako (日本)

[2002 年 11 月 14 日]

那是 15 年前的事了、当我问一对准备回国的德国人夫妇为什么回国时，得到了很严肃的回答：为了孩子的教育。因为他们不认为日本的大学是真正的大学。他们说，在日本 4 年制大学毕业，至多只有高中毕业程度，不能与德国的大学毕业相比。对此，我无言以对，我至今忘不了当时的遗憾与羞愧。

最近几年、有机会接触韩国与中国的年轻人，他们都异口同声：再过几年、自己的祖国将超过日本。因为日本的年轻人缺少自己肩负着祖国未来之责任感。最近韩国教育水平引人注目的提高也证实了这点。比如、1999 年 OECD 举行的数学、物理中学二年级学力测验，数学韩国第一，日本第二。物理匈牙利第一，接着是日本、韩国，日本与韩国的差距仅为一分。

现在，日本的大学不学习，已是世界有名。不喜欢的科目就不学习，仅学习考大学的必考科目，在大学没好好学习就毕业了。听说其中也有认真学习的，但

为数甚少。即使大学毕业，但连小学的分、小数也不会计算的大学毕业生增加了。在统计上，日本属高学历国家，大学毕业生人数确在增加，但其学力确在降低。

墨西哥又如何呢？在这里，大学毕业时，须达到所需条件，才能参加论文答辩，只有通过论文答辩，才能授与学位，大学修业人数与学位取得人数有相当大的差距。从取得学位这天起，在其工作企业便都以其学位称呼。在这里，大学毕业的资格，与日本明治时代的学士学位同样贵重。有谁取得了学士学位，就聚会庆祝，已成为惯例。就说我吧，我参加论文答辩，当天就宣誓，取得了学位。当校长宣布我取得学位时，马上门外响起了热烈的钟声，鞭炮声。这天下午，我住宿的那家墨西哥人家庭为我召开了 70 多人的聚会庆祝。从那天起，在学校里向别人作介绍时，就改为“这位是取得了学位的某某”。可能因为取得修士学位的人少之故吧，不知为什么有点难为情。

[翻译：王 菲]

Saludos desde Guanajuato (11)

Masako ONODA (Japan)

[14 de noviembre de 2002]

Hace 15 años, pregunté a un matrimonio alemán quienes estuvieron listos para regresar a su país, ¿por qué van a regresar a Alemania?, la respuesta fue muy severa. Era para educar a sus hijos, ya que no admitían a las universidades japonesas como “universidades,” los graduados de las universidades de cuatro años de estudio no tenían conocimientos superiores al nivel de preparatoria, por eso no podían admitirlas como un nivel igual al de los graduados de las universidades alemanas. No supe como replicar a eso. Todavía no me olvido el lamento y la vergüenza de entonces.

Estos años tuve algunas oportunidades de conocer a jóvenes de Corea y China. Todos me dijeron de la misma manera que sus países van a superar a Japón dentro de algunos años: ya que los jóvenes japoneses no tuvieron el coraje de ellos al cargar en sus hombros su país. Y como los hechos acreditan el dicho, el mejoramiento del nivel educativo de Corea ha progresado mucho. Por ejemplo, en los resultados del examen de matemáticas y ciencias del grado ocho, que la OECD hizo en 1999, en matemáticas, Corea ocupó el primer lugar, seguido de Japón: y en ciencias, Hungría se situó en primer lugar, Japón y Corea lo siguieron: pero la diferencia entre Japón y Corea fue únicamente un punto.

Ahora los universitarios japoneses se hacen famosos en el mundo por no estudiar. No les gusta estudiar las materias que no son necesarias para el examen, y estudian muy pocas asignaturas obligatorias para pasar el examen de ingreso,

son admitidos y egresan sin estudiar satisfactoriamente. Por supuesto hay universitarios que estudian sinceramente, pero escuche que son excepciones. Dicen que aunque se gradúen de la universidad, hay muchos que no pueden calcular fracciones o decimales que justamente estudiaron en la primaria. Estadísticamente, Japón se sitúa como uno de los países con educación de nivel más alto. Ciertamente, el número de graduados de la universidad se ha incrementado pero el conocimiento lamentablemente ha bajado.

¿Como está la situación profesional en México? Aquí cuando se cumple con los requisitos para graduarse en la universidad, por primera vez se puede asistir al examen de tesis, y luego únicamente las personas que pasan ese examen van a titularse. Por eso, hay mucha diferencia entre el número de los graduados y los titulados. Cuando se obtiene el título, desde este día las personas cambian la forma de llamarlo a uno por su título profesional, especialmente en su lugar de trabajo. El título de universitario aquí tiene tanto valor como el “gakushi” en la era de Meiji en Japón. Por esa razón, cuando alguien obtiene su título, se tiene la costumbre de organizar una fiesta. Citando mi caso como ejemplo, cuando me presenté al examen de mi tesis, ese mismo día obtuve el título bajo juramento. Cuando el director dijo que estaba titulada, hubo mucho ruido afuera, tocaban la campana y hacían estallar petardos. Ese mismo día, mi familia mexicana dio una fiesta en mi honor, invitando alrededor de 70 personas. Desde ese día, la manera de presentación cambió incluso en mi escuela como maestra titulada. Siento un poco de vergüenza, probablemente porque no hay mucha gente que obtiene ese título.



## ニュージーランド便り (25) アオテアロアから

外石 弥生 yayoi@hello.to

【2002 年 12 月 3 日記】

NZ の社会福祉の充実ぶりは日本でも度々話題になっているので、そのすべてについて紹介する必要はないと思いますが、日本のシステムと比べてかなり異なるものが医療制度です。

国民健康保険を基本とする医療保険の徴収制度は存在しないものの、NZ の公立病院におけるすべての医療行為は NZ 国民及び、永住権保有者はすべて無料となっています。

しかしながら公立病院での診察や入院、手術を希望する場合、いきなり病院を訪ねても急患以外は受け付けてもらえません。また医師や看護婦も NZ は恒常的に不足しています。報酬や待遇の良さから海外に職を求める医師や看護婦が増えているのが原因だからです。

おまけに検査、診察、手術待ちの患者のリストはかなりの数で、手術まで半年や一年待たなければならぬと言われても不思議ではないのです。

従って私立の病院での診療にかなり依存しなければならず、万一の場合を想定して健康保険を個人で付保しているのが NZ の現状です。

通常では「ちょっとおかしいかな?」と思っても、それが風邪の症状であろうが、目であろうが、足を挫いてしまった程度でも GP (ジェネラルプラクティショナー) と呼ばれるファミリードクターの診察を受けるのが NZ 流です。日本であれば、内科、眼科、外科と専門医の診察を受けるのが当たり前ですね。

GP が血液検査、レントゲン撮影の必要があると認識すると初めてラボと呼ばれる検査専門の施設を訪ねるように手配してくれます。日本のように同じ

屋根の下で診察から検査、治療等すべてが整うのは NZ の場合は公立病院という訳です。

その公立病院で最近、レントゲン技師がストライキを起こし話題になりました。

レントゲン技師が仕事を放棄すると病院での医療行為に支障をきたすのは言うまでもありません。レントゲンフィルムがなければ手術が出来ない…手術待ちの患者は増える一方。

NZ でつつがなく暮らすためには健康管理を怠らないことが一番と自分に言い聞かせる毎日ですが、NZ の医師不足に日本人医師数名が貢献しておられるのは心強い限りです。その一例として Y 医師を紹介したいと思います。

Y 医師は臓器移植のただ一人の専門医としてオークランド病院に勤務されています。

臓器提供者 (ドナー) が現れれば昼夜を問わず国内はもちろん、タスマン海も新幹線で東京と大阪を往復する如く数時間で往復します。NZ における生体肝移植の歴史は 4 年程だそうですが、先進医療を誇る日本では大きな話題になるであろう肝移植が、NZ では全くニュースにもならない日常行為であることを不思議に感じるのは私だけではないでしょう。

聞けば、アメリカで 5 年間の肝移植のご経験がありながら、日本でなくあえて NZ を次の活動拠点と決断されたとか…。

在住 7 年目になりながら未だ信頼できるファミリードクターを持ってない私にとって、NZ で活躍される日本人ドクターがこれからも増えることを切に願うこの頃です。



Gulf Harbor

**A letter from New Zealand (25) Hello from Aotearoa**

Yayoi SOTOISHI (Japan) yayoi@hello.to

[December 3, 2002]

It often becomes a topic of conversation among Japanese people how advanced the social welfare system in New Zealand is. Hence I believe that I do not have to go into the details. The medical system however, seems to be rather different from that of the Japanese.

Here in New Zealand we do not have the tax collection system for medical insurance based on the national health insurance. However any kind of medical treatment received at a public hospital is free of charge for both New Zealand citizens and permanent resident foreigners. However if you want to see a doctor, to enter a hospital or have an operation, you won't be able to be accepted except in the case of emergency. Furthermore hospitals always suffer from the lack of a sufficient number of doctors and nurses because a lot of those professional people go overseas since the remuneration for those professions here is not good enough to maintain an enjoyable life. As a result, the number on the list of patients waiting for medical examinations, consultations and operations is quite a lot so it is no wonder that patients are often notified that they have to wait from six months to a year for an operation.

Accordingly we should rather depend on private hospitals and have health insurance individually in case of emergency. When we feel something is wrong with our health, we generally go to see our family doctor called GP (General Practitioner). Even when we feel we are catching cold or our eyes hurt or something is wrong with our feet, it is the custom in New Zealand to consult the GP.

In Japan people see a particular medical specialist such as an internist, an ophthalmologist or surgeon, don't they? On the other hand, here only in the case where a GP diagnoses the necessity for a blood test or an X-ray, does the doctor make arrangements for us to visit an institution called 'Lab' which is a special facility for the examination.

Unlike in Japan, in New Zealand only public hospitals have all kinds of equipment and testing facilities.

Recently radiographers at a public hospital went on strike and became a topic among us. Of course it goes without saying that the medical treatment of the hospital does not go smoothly when there is a strike. Without a reontgenograph, they cannot perform operations. Consequently the number of people waiting for an operation increases.

I tell myself everyday that the best way to live in safety in New Zealand is to pay attention to our health care. However, I feel very secure knowing that several Japanese doctors have come to New Zealand to help the situation. Here I would like to introduce you one of them, Dr. Y, as an example.

Dr. Y works for the Auckland Hospital as the only specialist in organ transplants. When a donor for an organ appears somewhere, he makes a round trip in a few hours like we do between Tokyo and Osaka by the Shinkansen, not only inside New Zealand but also from Auckland to the Tasman Sea. It is four years since the first living liver transplant in New Zealand was performed. A liver transplant is not especially reported in New Zealand on TV or in the newspapers but is treated as a daily matter. However, I believe, in Japan, being proud of its advanced technique of medical treatment, this topic would be reported widely, which I, like most of you may feel is strange. I have heard that Dr. Y had five years experience in liver transplants in the U.S. but that he decided to come to New Zealand rather than to Japan as his next working place.

I have been living in New Zealand for about seven years but have still not been able to find a reliable family doctor so that now I truly hope the number of the Japanese doctors working here will increase from now on.

[Translated by: Y. TSUKUDA]

**新西兰鸿信 (25) 来自阿欧泰阿罗阿**

外石 弥生 (日本)

[2002 年 12 月 3 日记]

NZ 与日本之社会福祉上之医疗制度有相当大的差异, 在日本常将 NZ 之社会福祉之充实状况当话题谈论, 我想没有必要做全部介绍。

在 NZ 根本不存在以徵收医疗保险之国民健康保险制度, 只要是 NZ 之国民及有永住权者之受诊医疗行为, 所花之费用全部是免费得。

平常除了急性患者以外, 突然到公立医院、要求诊疗或住院, 或希望进行手术是无法即时就诊, 另外在 NZ 一直都缺医师、护士。近年来院为薪水待遇之高, 海外之医师护到 NZ 求职者逐渐在增加。

另外有相当多患者要做检查诊疗及等待做手术, 做手术等个一年半载, 也不是什么不可思议之事。

NZ 之现状也因为如此, 也不得不依靠私立医院做相当多的协助, 为了预防万一大家都有个自加入健康保险。

NZ 之做法, 平常稍感有些不适、不论是感冒的症状或是眼睛不舒服, 或是摔跤之类, 也都要接受叫 GP (综合) 之家庭大夫的诊察。如果是在日本的话, 接受内科、眼科、外科之专门医之诊疗是理所当然的。

GP 在诊察後, 认为有要做血液检查、照 X 光之必要时, 才与称做研究所之检查专门之设施联络安排检

查日程 (在 NZ 只有公立医院与日本相同在同一栋屋檐下, 设有全部的诊疗科目)。

最近, 公立医院引人注意之话题是 X 光摄影师, 引起罢工 X 光摄影师罢工, 对医院所造成之影响之大, 不用说也是很清楚。没有 X 光底片就无法进行手术, 那么等著要做手术的病患, 就一直增加为了要在 NZ 安心过生活, 每天提醒自己对自己的健康管理不能懈怠, 在 NZ 之医师不足上, 数位日本医师贡献之大心中甚感安心, 在这里我想介绍一位 Y 医师之事例。

Y 医师是在奥克兰医院工作的唯一的脏器移植专门医师。

当然在国内只要有脏器提供者出现时, 不分昼夜花数小时搭乘新干线往返拦达思曼海或东京大阪之间。以先进医疗自豪的日本, 我感到不可思议之处是, 日本对肝脏移植是大惊小怪。然而在 NZ 已是司空见惯之日常之事, 根本误不上是什么新闻。再多打听一些, 在美国已有 5 年之多肝移植之经验却决定了在 NZ 做下一个活动据点, 而不是日本。

对我这住在 NZ 已进入 7 年, 却仍然还没有可信任的家庭医师, 最近衷心望在 NZ 活跃的日本人医师能渐渐增加。

[翻译: 和氣 由季]

ノアの箱舟～カレンダーの裏紙を利用しての投稿

照井 増一 (日本)

【8月25日記】

別にノートが買えない訳じゃない  
 ただ、以前、貧乏（今もだけど）だったときからの  
 習慣さ  
 そのまま捨てたらゴミでしょ  
 すぐに捨てちゃう今の日本人と俺は違うのさ  
 すぐに捨てたら、すぐ燃やすでしょ  
 CO<sub>2</sub> がすぐにできるでしょ  
 自分だけならそんなに出してないと思ってる？  
 何の意識も持たないで、すぐ車のエンジンをかける  
 あなたたち、  
 このノート一冊を燃やすときに出る CO<sub>2</sub> とは比べも  
 のにならない CO<sub>2</sub> を出して  
 農薬をまいて、土を汚して、ミミズも死んじゃうし、  
 だから化学肥料を使うんでしょ  
 生き物にとって一番大事なものは太陽、光合成、緑の  
 木、植物  
 それらはメンタルな部分に必要なかもしれないけど、  
 車、携帯電話、コンピューターは生きていく上で我々  
 の生活の一部をカバーしているにすぎない

今、改めないと取り返しがつかない  
 地球は人間の物じゃない  
 すべての生物が生きていく場所  
 それでも生き物は残るけどね  
 一部の人間も

この前のニュース（TV）で農民の一人が  
 この農薬は不法（この農薬は農家を使用することは  
 認められているが、販売することは禁止されてお  
 り、使用すると人体に害がある。農家は害がある  
 ことを知っていたが、法的に罰せられないことを  
 知っていた。）なんでしょ？

ああ、でも労力は1/3ぐらいになるし  
 しかし、その農薬は発がん性があるのだ  
 俺の母は癌で死んだ  
 農薬を使ったキュウリ  
 使わないキュウリ  
 消費者は皆、上の方を買う  
 消費者の一人の言葉  
 「もっと情報があれば」とか「販売者が悪い」  
 俺は思う、「消費者が悪い」

Noah's Ark —Contribution written on the back of a calendar

Masuichi TERUI (Japan)

It's not because I can't afford a notebook to write in  
 It's just a simple habit I acquired when I was poor  
 If I just throw it away, it's trash  
 I am not like many Japanese of today who are ready to  
 throw anything away  
 As soon as you discard it, it will be burnt  
 And will immediately discharge CO<sub>2</sub>  
 Do you think that, if it's only you, the amount is not so  
 great?  
 You get into your car and start the engine without thinking  
 The amount of CO<sub>2</sub> it discharges doesn't compare with the  
 amount given off by a notebook when it's burnt  
 You spray chemicals, pollute the soil and the worms die  
 So you use chemical fertilizers  
 Sunlight, photosynthesis, green trees and plants are essential  
 for life  
 We may need them for our mental health, but  
 Cars, cell phones and computers are just a small part of our  
 daily lives  
 If we don't change things now it may be too late  
 The earth is not for humans alone  
 It's for all living creatures to inhabit

Yet living things will survive  
 Including some humans  
 I remember the remarks of a farmer who was speaking on  
 the TV news  
 He was told that the agricultural chemical he had used was  
 illegal  
 Its sale was banned, because it was dangerous to humans  
 But farmers would not be punished for using it, even  
 though they knew it was harmful  
 Oh, well, I would only have to work one-third as hard if I  
 used this chemical  
 But they say it causes cancer  
 My mother died from cancer  
 A good-shaped cucumber grown with chemicals  
 A curved cucumber grown without chemicals  
 The consumer buys the former  
 The consumer says,  
 "If I had been better informed" or "It's the dealer's fault"  
 I say, "It's the consumer's fault"

[Translated by: Y. NAKANO]

# 是利用挂历的翻面投稿

照井 増一（日本）

〔2002 年 8 月 25 日記〕 地球就不是人间的东西了

不是没有钱不去买簿子  
 以前是因贫穷（现在也是）但是到今天是习惯  
 这样扔了成垃圾呀  
 今日日本人什么都扔 我就不一样  
 马上舍掉马上燃烧呀  
 二氧化碳（CO<sub>2</sub>）也马上形成呀  
 大家都想我可没有扔那么多呢？  
 想也不想一下 就马上把汽车的马达开出  
 它排出的二氧化碳和烧一本簿时出的二氧化碳是不能比的  
 散农药 污染泥土 而且蚯蚓也死去  
 所以就用化学肥料吗  
 有生命的东西 第一需要的是太阳 光合成 绿树 植物  
 也可能有部分是必须不可的  
 汽车 携带电话 电脑等是现在生活中不可少的  
 但在我们的生活中也就有一部分就变的蠢了  
 现在 如果不把它改变过来

而是生物的生存的场所了  
 就是这样 有生命的还是会生存下来  
 人间的一部分也会

在前 电视新闻中报导 有一位农民 违法使用有毒农药（这位农民，承认使用了农药，也知道它禁止卖买，也知道有害于人体，也知道要受法律的处罚）为什么？

啊 因为用它后 只需要 1/3 的劳动力

可是 这农药有发癌性呢

我的母亲死于癌症

有的黄瓜是用过农药的

也有不用农药的黄瓜

但消费者们买上面的

有些消费者说：

「应该说明的清楚些」等什么的「是贩卖者坏」

我想是「消费者们坏」

〔翻译：石井 通惠〕

## バンコク四方八方 (14) ～微笑みの国タイから～わが師、瀬戸正夫さん（上）

岩船 雅美（日本）

〔2003 年 1 月 10 日記〕

タイ暮らしも、もうすぐ丸 4 年になる。

元旦に、チャオプラヤー (CHAOPRAYA) 川沿いの寺を訪れ、仏様に線香と蓮の花を供えて今年 1 年の平和をお願いした。金箔の小片を仏像の眼にはりつける。これは P C と写真撮影のため眼を酷使するからである。なお、線香・蓮の花・金箔は、お寺の売店や露天で分けられていて、1 セット 20 バーツが相場である。

99 年、N G O スタッフとしてバンコクに赴任した当初は、日本にいる病身の両親のことを考えて、2 年で帰国するつもりだったのだが、その両親ももう他界して 2 年半になる。父に最後に会ったとき（このとき、すでに母は他界していた）、父は「お前は自分の仕事にはげめ」と言ってくれたことを思い出す。

父の葬儀を終えてタイに戻る前に、僕はキャノンの EOS-1N という、職業写真家が使うような本格的なカメラを買った。タイの社会をもっとよく見るために、写真を撮ろうと思った。それが、なぜかしら父の最期の言葉に報いるような気がした。

それから、しばらくして、瀬戸正夫さん、というカメラマンにお会いすることができた。瀬戸さんの作品を見せていただいたり、自分の写真を指導していただいたりするうちに、光栄なことに、弟子にいただいた。

瀬戸さんは 1931 年タイ南部のプーケット島 (PHUKET) 生まれ。有名な報道カメラマンであり、朝日新聞アジア総局 (ASAHI SHIMBUN, ASIAN GENERAL BUREAU) の顧問をなさっておられる。す

らりとした長身で、銀髪に長髪に、タイでは珍しい黒い上下の服がトレードマーク。72 歳になった今も、毎朝 10km のジョギングを欠かさない。いつも愛用のニコンを持ち歩いておられる。

瀬戸さんと親しくお話させていただくようになり、実は、この方が、アジアの現代史、ことに太平洋戦争史の重要な証人であることがわかってきた。

瀬戸さんの人生は、戦争に翻弄され辛酸をなめつくした人生であった。

瀬戸さんは、日本人の父とタイ人の母の間に生まれた。父は日本人の妻と結婚しており、瀬戸さんは、生まれてすぐに父の家庭に引き取られ、日本人学校に通い、日本人として育てられた。継母は日本人であった。日本の敗戦後は、日本人収容キャンプに収容された。父は戦犯で捕まり、シンガポールのチャンギ (CHANGI) 刑務所に収監されていた。瀬戸さんが 15 歳でキャンプを出てからは、生活力のない継母を養うために、金魚売り、バーのボーイなど、できることは何でもやって働いたという。

そして、戦後、瀬戸さんが 21 歳になった頃に、瀬戸さんの出生届が、タイの役所でも日本の領事館でも手続きされておらず（あるいは手続きされていたのだが役所で紛失したのか、真相はわからない）、日本の父の戸籍には瀬戸さんが登録されていないことがわかった。その父は、戦争中に別れてしまっから会うこともできなかった。

日本国籍もなく、タイ国籍もない。瀬戸さんは無国籍だったのである。

「僕はいったい何人で、どこへいけばいいんだろう……」

瀬戸さんは悩み、そして苦しんだ。

（続く）

**All Directions of Bangkok (14) From Thailand, A Pleasant Country**

Mr. Masao Seto, My Mentor (1)

Masami IWAFUNE (Japan)

[January 10, 2003]

Soon I will have been living in Thailand for a whole four years.

On New Year's Day I visited a temple located by Chao-praya River and prayed for peace for this year, and offered incense sticks and lotus flowers, and putt pieces of gold leaves on the eyes of Buddha. You get the incense sticks, lotus flowers and gold leaves at stands and stalls, usually at 20 bahts a set. And why did I do what I did, and place the leaves on the eyes in particular? Because I drive my eyes hard working on the PC and taking photos, so I need to protect them.

When I arrived at my new post with an NGO in Bangkok in 1999, I had planned to return home within two years because of my parents ill-health. However, it has now been two and a half years since both of them passed away. Now I remember what my father said when I last met him, "You should devote yourself to your task." My mother had already gone by then. After his funeral and before I came back to Thailand, I bought a full-scale camera that a professional photographer would carry. It was a Canon EOS-1N and I felt like repaying my late-father for his words.

In a short time, I met Mr. Masao Seto. He showed me his photographic work, and undertook the task of teaching me his art, and finally I had the honor of becoming his private pupil. He was born on Phuket Island in southern Thailand in 1931. He is a famous news photographer and works as a consultant for the Asian General Bureau of Asahi Shinbun. His trademark build, a tall and thin figure with silvery long hair, wearing black suits, sets him apart from everyone. You seldom see someone of his appearance here

in Thailand. And even at the age of 72 he never misses his ten-kilometer jog every morning. All the time carrying his favorite Nikon camera.

As time went on and I got to know Mr. Seto better, I learnt that he is an important witness of modern Asian history, especially during the Pacific War. His whole life has been at the mercy of the war and he's gone through a lot of hardships. Masao was born to a Japanese father and Thai mother. However, his father was married to a Japanese woman at the time, and so he was adopted into his father's home, attended a Japanese school, and was brought up as a Japanese boy, with a Japanese stepmother. When the war was over, he was taken into a concentration camp, while his father was in Changi prison as a war criminal. After being released at the age of 15, Mr. Seto did whatever work he could, from being a goldfish vendor, a bar boy, and such, to support his stepmother who was not able to make a living.

Mr. Seto found, when he was 21 years old, that the family register did not have his name entered. His birth was not registered either at the Japanese consul or at the Thai government office. Or it may have been lost amongst all the bureaucratic paperwork. Who knows? He could not see his father to ask him because it had been a long time since the war when he last met his father.

Mr. Seto is not officially Japanese, nor Thai. He is so-called stateless. "What is my nationality and where should I live ...?" This question causes Mr. Seto a lot of distress and worry.

(To be continued)

[Translated by: M. KAWASHIMA]

**来自微笑的国度—泰国 曼谷的四面八方 (14) 我的老师—濑户正夫先生 (上)**

岩船 雅美 (日本)

[2003 年 1 月 10 日]

我在泰国生活已经快满 4 年了。

今年元旦,我访问了朝普拉雅(CHAOPRAYA)河畔的一座寺院,在佛前供奉了香火和鲜花,以求得今年一年的和平。我在佛像的眼睛上贴了小片金箔,这是因为我总是从事电脑和摄影,使眼睛非常疲劳。香、莲花和金箔是在寺院的小店和露天买到的,每套价格一般为 20 泰铢。

1999 年,我作为 NGO 的成员赴曼谷工作,当时考虑到在日本的父母多病,准备工作两年以后就回国。但是父母已经于两年半以前过世了。我想起最后和父亲见面时(当时母亲已经去世),父亲对我说过的话:"你要努力做好自己的工作!"

办完父亲的丧事以后,我在返回泰国之前买了一台专业摄影师用的佳能 EOS-1N 照相机,想拍一些照片,以便更好地观察泰国的社会。我总觉得这样似乎可以报答父亲最后的期待。

过了不久,我遇到了一位名叫濑户正夫的摄影师。在欣赏濑户先生的作品,并请先生对我拍的照片进行指导的过程中,我很荣幸地成为了先生的弟子。

濑户先生于 1931 年出生在泰国南部的普凯特岛(PHUKET),是著名的新闻摄影师,现在是《朝日新闻》亚洲总局(ASAHI SHIMBUN, ASIAN GENERAL BUREAU)的顾问。他身材瘦长,有一头银色的长发,穿一身在泰国很少见的黑色衣服。现在虽已 72 岁,但仍坚持

每天早上跑 10 公里,走路时总是带着心爱的尼康牌照相机。

随着与濑户先生的深入接触,我发现他是亚洲现代史、特别是太平洋战争史的一位重要的见证人。濑户先生的一生,是饱经战争磨难,充满了辛酸的一生。

濑户先生的父亲是日本人,母亲是泰国人。当时他父亲已经与日本人的妻子结了婚,他出生后马上就被带到父亲家收养,上的是日本人的学校,受的是日本人的教育,他的继母是日本人。日本战败后,濑户先生被日本人收容所收容,父亲作为战犯被捕,关在新加坡的樟宜(CHANGI)监狱。据说濑户先生 15 岁出了收容所以后,为了赡养没有生活能力的继母,卖过金鱼,作过酒吧的服务生,几乎尝试了所有能做的工作。

战后,在濑户先生 21 岁的时候得知,无论是在泰国的政府部门还是在日本的领事馆都没有办理过自己的出生证明手续(也可能是已经办过手续但被政府部门遗失了,真相不明),而在日本的父亲家的户口上也没有关于濑户先生的记载。自从在战争中分手以后他再也没有见过父亲。

既没有日本的国籍,也没有泰国的国籍——濑户先生是个没有国籍的人。

"我到底是哪国人,该到哪里去?"濑户先生十分困惑,也十分痛苦。

(待续)

[翻译:栗文霖]

## 編集後記

2003 年、希望に溢れて新年を迎えられましたか？

どんな不安や困惑を抱えていても、何かを契機にして、自分を前向きに方向転換することを考えます。年が改まるのをその機会とする人も多いことでしょう。

編集に携わっていると、みんながどんな言葉で、自分の考えを表わしているかがもっとも気にかかります。今年はそんな言葉の中から、私も含め読者を明るくしてくれるものに注目していこうと考えています。

紛争や戦争の時代は 20 世紀の内に終焉を迎えて欲しいと願っていました。そんな誰もの望みは叶えられませんでした。世界の平和を旗印にしながら、テロや武力行使を手段とする動きはいまだに続いています。

わたしたち人間には、言葉というかけがえのない力があります。誰もがこの力を発揮し合い、平和という人類共通の目標に向かえば、どんなに喜ばしいことでしょう。

「サウス・ウィンド」では、落胆や怒りを克服し、力づけてくれる元気で建設的な言葉をお待ちしています。本年もどうぞよろしくご投稿、ご愛読ください。

「サウス・ウィンド」編集長 中野 義子

## Post-script

Are you full of fresh hopes for the year 2003?

We try to have a certain opportunity to gear ourselves up for a positive stand, in spite of anxieties and problems that we may have. Many people would take New Year's Day as a good occasion to do this.

As the Editor in Chief of South Wind, I am very much interested in the words people use to express their opinions and ideas. My objective for this year is to identify those words that help the readers and myself look forward to a brighter world.

Everybody hoped that the period of wars and conflicts would be over by the end of the last century. Unfortunately that hope was in vain. The world is still under the threat of terrorism and armed diplomacy in the name of the world peace.

We, human beings, have developed one of our characteristics, the gift of words. If everyone makes better use of this gift by communicating with each other in search of our common goal of a stable peace, the world will be much richer and happier.

South Wind would like to hear your energetic and constructive words that will encourage us to overcome our sorrow and anger.

We, the editorial members, request your kind cooperation through the contribution of articles to South Wind and also hope you continue to enjoy reading our publication in this New Year.

Editor in Chief: Yoshiko NAKANO

## 编辑後记

大家都度过了充满希望的 2003 年的新年了吗？

即使有著各种不安与困惑，我希望自己可以把握契机，将自己转换至更积极的方向。相信也有很多人将新年当成是一个新的机会吧。参与编辑後，开始特别关心大家是用什么词汇来表达自己的想法。今年将特别用心从这些词汇中，撷取可以让大家感到开朗的部分。

我曾经期望 20 世纪结束以後世界上将不再有动乱与战争，然而事与愿违，这个愿望没有实现。高举世界和平的大旗，动不动就行使武力或进行恐怖活动的现象仍依旧持续著。我们人类可以使用“语言”这项强而有力的工具，如果大家可以发挥这项强而有力的工具，共同朝人类的共同目标“世界和平”，迈进那该多好。

「South Wind」在此期待各位投稿给我们不畏恐惧，克服愤怒，鼓舞大家积极向前的好文章。期望今年可以继续得到大家的支持肯定并投稿。

主编：中野 义子

[翻译：陈 进财]



### 日本語で話す会 / “Let’s Chat in Japanese”

港区国際交流協会では、日本語を勉強していても実際に話す機会がない外国人の方、新しく友だちをつくりたい、話題に興味をお持ちの外国人の方を対象に「日本語で話す会」を毎月原則第三土曜日に開いています。中級レベルでは身近な話題を中心に、上級レベルでは時事問題を中心にお話を進めます。LCJ ボランティアスタッフがお待ちしております。ぜひ一度、ご参加ください。

日にち：3月15日（土）、4月19日（土）、5月17日（土）午前11時～12時30分

場 所：三田 NN ホール スペース D （港区芝 4-1-23）

内 容： 未定

This is a great opportunity to practice your Japanese conversation skills and make new friends, through discussion/exchange of opinions. Please come to our LCJ, “Let’s Chat in Japanese,” meeting. We have intermediate and advanced levels. Let’s have great fun chatting in Japanese!!

Date: Saturdays, March 15, April 19 and May 17

Time: from 11:00 a.m. to 12:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku

Topics: To be announced



### 英語で異文化再発見 / “Let’s Rediscover Japan”

港区国際交流協会では、英語による「異文化再発見」の会を毎月原則第三土曜日に開いています。

日本について、知っていると思っていても、まだ見落としていることがあるかもしれません。また、海外のことを知ることで、日本のことを知ることもあるかもしれません。

このプログラムでは、毎回、スピーカーが一つの話題を提供します。スピーカーのお話を聞くだけでなく、参加者同士のフリーディスカッションの時間もあります。

興味をお持ちの方、ぜひ一度ご参加ください。新しい発見があるかもしれません。

日にち：3月15日（土）、4月19日（土）、5月17日（土）午後1時30分～3時30分

場 所：三田 NN ホール スペース D （港区芝 4-1-23）

This program for rediscovering Japan is conducted in English. Meetings are held monthly on the third Saturday.

Can you fully and confidently express yourself when discussing Japan and your own country? There may be some things you have overlooked or features which you will want to reexamine after hearing someone else’s ideas.

Meetings include time for free discussion among participants. Everyone is welcome. There will be time for free discussion. Please bring a snack worth about 200 yen with you to share with your friends.

Date: Saturdays, March 15, April 19 and May 17

Time: From 1:30 p.m. to 3:30 p.m.

Place: Mita NN Hall, Space D, 4-1-23 Shiba, Minato-ku, Tokyo

Topics: To be announced



## **投稿募集**

港区国際交流協会翻訳委員会では、紙上を意見発表／交換、討論の場として、多様性を認識し、一層深い理解と友好を互いに深め合うことを目的として「South Wind」を発行しています。皆さまの投稿をお待ちしております。なお、掲載についてはSW編集部で検討させていただきます。

- ① 投稿原稿の字数は 800 字以内でお願いします。
- ② South Wind に掲載された記事は港区国際交流協会の website に掲載されることもあります。
- ③ South Wind に掲載された記事についての著作権は港区国際交流協会に帰属します。

**投稿方法：** 原稿は原則として日・英・中のいずれかを使用してください。

**宛先：** 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区役所 8 階  
港区国際交流協会事務局 South Wind 編集部  
Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

## **Your Contribution is Welcome**

By exchanging opinions with other people, who are from different cultures or backgrounds, in “South Wind,” we hope we are able to recognize the diversity of our society and deepen our mutual understanding and friendship with each other. Please take full advantage of this opportunity to express your opinions! The Editorial Committee reserves the right accept, reject and/or edit articles submitted for publication.

1. Length: within 800–1,200 words
2. Minato International Association reserves the right to publish all articles submitted for publication in South Wind on their website (<http://www.minato-intl-assn.gr.jp>).
- 3 Copyrights on all articles submitted for publication in South Wind become the sole property of Minato International Association.

**How to contribute:** Please submit your essay written in Japanese, English or Chinese.

**Send contributions to:** South Wind Editorial Room; Minato International Association  
Minato City Hall 8<sup>th</sup> Floor, 1-5-25 Shibakoen; Minato-ku, Tokyo 105-8511  
Fax: 03-3578-3537 E-mail: s-wind@minato-intl-assn.gr.jp

## **募稿**

目前港区国際交流協会翻訳委員会出版名叫“South Wind”の小報。基于不同国家之文化风俗等，互相提出各种各样的意见，把该报当着发表所交换所想讨论各个意见之场所，进一步加深相互理解加强交流为其目的。欢迎各位积极投稿。将由编辑部研究是否采用。

**投稿方法：** 投稿原稿的字在 800 字以内，请多关照。

**投稿方法：** 原稿原文请用下面的语言： 日语、英语、中国语

**收件地址：** 105-8511 港区芝公園 1-5-25 港区役所 8 层  
港区国際交流協会事務局 “South Wind” 编辑部